

石垣島に軍事基地がないと外国が攻めてくる？

2016年1月7日 新川在住 笹尾哲夫 FBに投稿

戦後の70年間、近隣には急速に経済力と軍事力を強化した大国もありました。「軍事力がないと攻められる」なら、とっくに攻められていたでしょう。でも、軍事基地の無いこの島は平和でした。それには理由があります。

一、軍事的理由：今の石垣島に、攻めるべき軍事的意味はない

石垣島は、先の沖縄戦で米英軍による激しい空爆と艦砲射撃にさらされ、多くの犠牲者を出しました。それは、島内に、特攻機が発進する軍用飛行場を3ヶ所も建設していたからです。

しかし、飛行場が破壊された後、上陸作戦は行われませんでした。それは、この島にそれ以上の軍事的意味はなかったからです。

今の石垣島には、ミサイル基地も、軍需工場もありません。出撃拠点にする地理的優位性もほとんどありません。昔も今も、上陸作戦に要する戦費、人員、占領統治の負担に見合うだけの軍事的価値はないのです。日米の反撃を受けて全面戦争になる可能性がある攻撃を、軍事的意味の無い島に対して行うなんて、とても出来ることではありません。

二、政治的理由：攻めれば国際的に孤立し、制裁の対象になる

領土紛争の対象でもない、ミサイル攻撃などの脅威もない石垣島にいきなり攻め込むのは、誰がどう見ても明らかな侵略行為です。戦前ならいざ知らず、今は国連憲章が侵略戦争を認めていない時代です。国際秩序に反する行為は、友好的だった国も含めて圧倒的多数の国から非難され、国際的孤立に陥らざるを得ません。

ましてや、安全保障理事会の常任理事国や核保有国にできることではありません。せっかく築いた「責任ある大国」のイメージと影響力を一挙に失うばかりか、勢いづくライバル国から、外交的経済的制裁に加えて軍事的制裁すら受けかねないのですから。

さらに、他国との領有権争いで手一杯な上に、民族、格差、人権の問題をめぐって各地で騒乱が頻発するような国の政府であれば、火遊びをする余裕はないはずです。

三、経済的理由：攻めても得るものはなく、失うものはあまりにも大きい

仮に占領できたとしても、石垣島には海底油田も希少金属も先端産業もありません。確かに観光資源は超一流ですが、占領下で利益が上がる業種ではありません。平和を保ち、リゾートに投資したり、クルーズ船で観光客を送り込む方が、ずっと儲かるでしょう。

一方、失うものは甚大です。輸出入に大きな比重を占める日本、欧米、周辺諸国が国交断絶や経済制裁などの対抗措置をとれば、死活的に重要な海外資本、技術、原材料が手に入らなくなり、好調な経済を牽引してきた輸出産業が販路の大半を失います。対日輸出だけで、年間20兆円近くを失うのです。多くの工場が操業停止に追い込まれ、失業者が街に溢れるでしょう。

経済的大打撃で政権崩壊する危険を冒してまで、資源も工業もない島を略取しようとする国はありません。

だから、これまで石垣島を攻める国はなかったのです。

しかし、この島に尖閣まで届く地对艦ミサイルの基地を置けば、状況は一変します。相

手方にとっては、

軍事では、石垣島にミサイル攻撃を行うべき軍事目標ができます。

政治では、「日本が先に手を出した」と民心を固め、諸外国を中立か支持に回せます。

経済では、制裁も受けず、軍需景気を起こして海外資本を呼び込めます。

こうなれば、攻撃される可能性も現実味を帯びるでしょう。

結局、ミサイル基地の配備は、島を守るためではなく、戦争準備のために、国（本土の政府）が沖縄の島を要塞化することです。旧陸軍の軍用飛行場建設もそうでした。問われているのは、この無謀な「国策」に同意するかどうかです。